

# 「未来を創造する教育」



宗 教 部 長  
佐々木 哲夫

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

# 大学礼拝

WORSHIP SERVICE

「**社会**の質は教会の質に依存し、教会の質はその指導者たちの質に依存し、指導者たちの質は彼らの受けた訓練の質に依存する」と語った学者がいました。教育は重要である。しかし、その教育は、知識や技術の伝達だけで終わるものではなく、教育それ自体の有する質も問われているということです。

これらのことを命じ、教えなさい。あなたは、年が若いということ、で、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。(テモテへの手紙第一 四章・十一〜十二節)

さて、新約聖書時代のことですが、使徒パウロは、協力者テモテを教会の指導者として派遣しました。パウロは、派遣したあとに彼に手紙を認め、良き指導者となるための助言を与えています。その一例が冒頭の聖書箇所です。若いということ、で軽んじられることのないように言葉や行動に心を配り、愛や信仰や純潔の点で人々の模範となるようにと勧められています。パウロの教育の気品の高さを垣間見る思いがします。

この質に依存し、教師たちの質は彼らの受けた訓練の質に依存する」となります。知識や技術を次の世代に伝達することは重要なですが、教育においては、教育それ自体が有する質こそ重要だということです。学ぶ者の人格を涵養する教育、いわゆる、全人教育の重要性です。

パイプオルガンの音と讃美歌が響き渡り、聖書の言葉が公に告知される東北学院大学のキャンパスでは、知識や技術の習得だけでなく、全人教育が重視されています。礼拝堂が存在するキャンパスは、日本社会の未来を創造する教育を担っているのです。



2012年

春季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS

第121号

# 「今こそ、向こう岸に渡ろう」

## マルコによる福音書

第4章35節-第5章20節



青山学院女子短期大学  
准教授

吉岡 康子

「海なんてだいざいばかやるー  
今までありがとう ぼくの家」昨年夏に  
青山学院女子短期大学の学生たちと共に  
宮古に被災地ボランティアに行った時「解  
体して下さい」と書かれた御宅の壁にひっ  
そりと書かれていました。聖書においても  
海は常に恐怖の対象でした。しかし海に、  
それも夜、漕ぎ出す一艘の船があります。  
イエス・キリストと弟子たちです。「向こ  
う岸に渡ろう」との主イエスの呼びかけに  
促されて彼らは船出します。弟子の中の  
数名はこの海を魚場としていた漁師でし  
たから知恵と経験がありました。プライ  
ドもあつたのでしょう。しかし彼らの船を  
嵐が襲います。弟子たちは慌てふためき  
ました。人間の経験や知識が行き詰った

おられる神を発見するのです。「おぼれそ  
うです」とすがりつく事が出来るのです。  
主イエスは私たちの叫びに心えてくださ  
います。「黙れ、静まれ」と言われると風は  
やみ、すっかり凪になるのです。その時彼  
らは、そして私たちは知ります。本当に  
怖れ従うべき方はどなたかを。  
こうして嵐の海を越えて主イエスと弟  
子たちは「向こう岸」に渡ります。話は  
そこで終わりません。対岸で待っていたの  
は人間の風です。自分で自分をコントロ  
ールできず、周囲と自分自身を傷つけ、破  
壊し続けている人です。人々から恐れられ、  
疎んじられ、見放されたひとりの男と出  
会うために、主イエスは夜の湖を嵐を貫  
いて渡ってこられたのです。彼は主に助け

を求めずはしません。主イエスを避け  
るのです。墓場でしか生きることが出来  
ない彼に希望はありません。自分は今  
ここでしか生きることが出来ないと思っ  
ています、自分はもはや変われないと思っ  
ています、自分が救われる事などないとあ  
きらめています。しかし、主イエスは彼を  
あきらめません。神の救いの光の届かぬ  
地も、人も出来事もないのです。神の救  
いに預かれたいと人が人を決めてしまっ  
とは出来ません。自分で自分を決めつけ  
てもいけないのです。そのひとりのため  
に主は嵐の海をわたり、十字架にかかり、  
その人のために、復活されたのです。主  
イエスによってまことの人間性を回復させ  
られたこの人は主イエスと共に向こう岸に  
渡る新しい人生へと踏み出します。「向こ  
う岸に渡ろう」——今日主イエスは私た  
ちに呼びかけておられます。主の招きに  
答えて軽やかに新しい旅へと出発する私  
ちでありたいと心から願います。

### ◆吉岡康子 先生

一九六〇(昭和三五)年生まれ。

一九八三(昭和五八)年、日本ル  
テル神学大学(現ルーテル学院大  
学)神学部卒業。

一九八七(昭和六二)年、東京  
神学大学大学院神学研究科博士課  
程前期課程 修了。

一九八七(昭和六二)年、日本  
基督教団 聖ヶ丘教会伝道師。

一九九〇(平成二)年、日本基督  
教団 青森松原教会牧師。

一九九二(平成四)年、日本基  
督教団 吉祥寺教会牧師(〜現在  
に至る)。

一九九七(平成九)年、日本基  
督教団 学生・青年センター学生キ  
リスト教友愛会(SCF館長)。

二〇〇九(平成二一)年、青山  
学院女子短期大学 宗教主任・准  
教授(〜現在に至る)。

「愛する、愛される」  
ルカによる福音書  
第10章25節-37節



東京神学大学 准教授

焼山 満里子

たはずです。けれども哀れに思い助けるのです。サマリア人にとって、行き倒れの人がユダヤ人であるとか、サマリア人であるとかは、すでにどうでもよいことでした。ただ救いを求める人がいる、その人を生かそうとする、それだけがこのサマリア人にとって大切なことでした。

『愛するということ』紀伊国屋書店、一九五九年)。その意味は愛するということ、努力して学ぶことだ、ということ。愛とは、自然に湧き上がってくる誰かを好き、という感情や誰かに好かれたい、幸せになりたいという感情とは違う、と考えています。努力して愛そうとする、相手を生かそうとする。行き倒れの人がユダヤ人でもサマリア人でも、あるいはまたうじがたかり、蟻に喰われ、悪臭がしているとしても、この好きという気持ちとは正反対の気持ちをも努力して乗り越えていく、それが愛することです。そうすれば、憎しみや偏見を乗り越えて人が生き、人を生かすことができます。

今日は特別伝道礼拝にお招きいただきましてありがとうございます。一緒に読んでおります「善いサマリア人」と題されたたとえ話は、ありのままの誰かを愛する、そのことによって人が生きるようになるということを教えてください。

マザー・テレサは、インドのカルカッタで「死を待つ人の家」という施設をはじめました。一九五二年、今から六〇年前の事です。マザー・テレサが死を待つ人の家をつくつたのは、だれでも死を迎える時は人間らしく、笑って、平和のうちに感謝して亡くなるようにという願いからです。マザー・テレサは、死を待つ人の家で息を引き取った男性の言葉を伝えていきます。「わたしは道で、動物のように生きてきた。でも、今、天使のように死を迎える」(アイリーン・イーガン、キャサリン・イーガン編著、佐倉泉訳『マザー・テレサの愛と祈り』ドン・ボスコ社、一九九六年、三一頁)。

神はわたしたち一人一人を造り愛し見守っています。神の愛を実感することが難しい、愛されていることが感じられない時でも、誰かを愛することはできます。そして誰かを愛することによって、相手を本当に生かすことができます。愛し、愛される生活を求めていきたいと思えます。

この善いサマリア人のたとえは敵対するグループに属する二人の人の話です。一人はユダヤ人で、旅の途中に人里離れた所で追いはぎにあい、半殺しのまま、置き去りにされてしまいます。そこに同じユダヤ人が通りかかりますが、助けようとはしません。そこにまた一人のサマリア人が通りかかります。このサマリア人してみれば、自分達を差別するユダヤ人が危険にさらされているのですから、知らんぷりもでき

愛するということは技術だ、と言った人がいます(エーリッヒ・フロム、懸田克躬

◆焼山 満里子 先生

- 一九六七(昭和四二)年生まれ。
- 一九八六(昭和六一)年、女子学院高等学校卒業。
- 一九九一(平成三二)年、国際基督教大学教養学部卒業。
- 一九九四(平成六)年、国際基督教大学大学院比較文化研究科博士前期課程修了。
- 一九九七(平成九)年、東京神学大学大学院神学研究科博士前期課程修了。
- 一九九七(平成九)年、梅光大学院大学短期大学部 宗教主任。
- 二〇〇一(平成三三)年、梅光大学院大学短期大学部 退職。
- 二〇〇七(平成一九)年、東京神学大学 常勤講師。クレアモント大学院大学博士課程 修了。
- 二〇一一年(平成二三)年、東京神学大学 准教授(〜現在に至る)。

# 各キャンパスのメッセージ

*Izumi*

泉キャンパス  
大学宗教主任

村上 みか



**青葉**の美しい、さわやかな季節となりました。今年は冬が長かっただけに、この明るさは希望を感じさせ、私たちを前向きな気持ちにしてくれるように思います。もっとも、気候がさわやかになつたからといって、いつも心さわやかに、ということにはならないでしょう。勉学のことや将来のこと、あるいは人との関係など、それぞれに考え、悩み、心穏やかでない日々も少なくないと思います。そのようなときは、礼拝に来て、心を静かにし、考えるひとときをもって下さい。

このところ、たくさんの皆さんが礼拝に参加され、嬉しく思いますが、少々にぎやかです。心静かに黙想する場となるよう、皆さんの協力をお願いします。

*Tagajo*

多賀城キャンパス  
大学宗教主任

原田 浩司



**多賀城**礼拝堂の入り口は他のキャンパスの礼拝堂よりも緑の自然が豊かに感じられます。多賀城の礼拝堂の前に植えられている「ハンカチノキ」が水無月の梅雨に濡れ、季節は春から夏へ向かっています。

今年の新生入生たちも大学生活に慣れ、必修科目のキリスト教学や毎日の礼拝など、東北学院大学の雰囲気馴染んで来たことでしょう。昨年は「震災」一色に染まった一年でしたが、今年は何年のスケジュールどおりに物事が進んでいきます。昨年の出来事以来、人間が生み出す科学技術はいつの時代も意図せざる功罪をもたらしてきたことをつくづく思われます。三・一一以後を生きる私たちは、改めてこの世界のことや自然について考え直す必要があります。利便性をひたすらに追求するだけでなく、立ち止まって、聖書の言葉に耳を傾けながら、生きることの意義やこの世界の本質を探究することはとても大切だと思います。

*Tsuechitoui*

土樋キャンパス  
大学宗教主任

出村 みや子



**古**の詩人は天を見上げ、「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくとも、その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう」(詩一九)と歌つて神の栄光を讃美しました。

大洪水に見舞われて地上の生き物が拭い去られた後に、ノアは雲の中に虹が現れるのを見て神との契約を確認し、また信仰の危機に直面したアブラハムを再び信仰へと立ち返らせたのは夜空に輝く無数の星でした。

多くの人々が一斉に空を見上げた皆既日食の朝、時々刻々と欠けてゆく太陽を見ながら、学生の皆さんは何を思つたでしょうか。

日々の大学礼拝を通じて若き日にあなたの創り主を覚え、自然の中に神の創造の痕跡を見るまなざしを養っていただきたいと思います。

## 編集後記

春季特別伝道礼拝の特集号です。大勢の学生が貴重なお話を聴くことができましたが、出席できなかった学生は、この紙面をお読みください。各キャンパスの大学礼拝は先生方が心をこめて行っています。皆さんも引き続き良く出席するように努めましょう。(N)

二〇二二年六月 東北学院大学宗教部  
千九八〇一八五二  
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号

## ◆サマー・カレッジ案内

豊かな自然の中で聖書のメッセージに学びながら学生・教職員相互の交わりを深める宗教部主催による恒例のサマー・カレッジを、宮城蔵王ロイヤルホテルを会場に行ないます。今年度も以下の様々なプログラムを用意していますので、皆様ふるってご参加ください。

- 日時 八月六日(月)～八月八日(水)
- 会場 宮城蔵王ロイヤルホテル
- 主なプログラム 開会礼拝、主題講演、酪農センター見学ソフトボール、祈りの夕べ、閉会礼拝
- 対象 大学の学生・教職員
- 参加費 八〇〇〇円
- 締切日 七月二十一日(土)
- お早めにお申し込み下さい。()
- 申し込み先 土樋キャンパス・本館二階宗教事務課 泉キャンパス・一号館二階庶務係 多賀城キャンパス・一号館二階庶務係 (参加費を添えてお申し込み下さい。)